

～ 【 風の中にいるときは 】 ～

昔、阿蘇の中学校に5年間勤務しました。その時代に、幸運なことに保護者の紹介で、熱気球に乗る経験をする事ができました。当日を迎えました。突き抜けるような青空で絶好の気球日和と思いましたが、ちょっと風が強く、揺れたら怖いだろうな、と思っていました。

インストラクターの方と熱気球に乗り込みました。諸準備の後、「さあ、行きますよ。」と言いながらバルブを開けると、頭上のバーナーが「ゴォー！」という音を立てて炎を上げました。そのうち地面からどんどん離れ、下から見上げている人達が豆粒大になりました。遠くを見ると阿蘇五岳が雄大な姿を見せてくれました。空に上がると風が吹いてないことにふと気づきました。「風が止んだのですか。」と聞いたらインストラクターは笑いながら「いやいや、風に乗ったんですよ。風に乗ったら風は感じないものです。」と仰いました。この日以来、「風に乗ったら風は感じない。」その言葉がずっと頭の中に残っていました。



鹿南中も風が吹いています。気象学でいうところの風ではありません。「鹿南中文化」という風が吹いています。鹿南中生として生活しているときに風を感じる。つまり、何となく、または強く抵抗を感じる。服装のきまり、生活のきまり、学習のきまり、授業のきまり。こうしたことに抵抗を感じてしまう人は、鹿南中の風に乗りにくいのだらうと思います。逆に別に気になることはなく、普通に学校に行って授業を受けて、部活して、普通に帰宅する毎日をくり返している。風なんて全く感じない。そんな人は鹿南中の風に乗りにくいのだと思います。

風を感じる人がいけない、というわけではありません。風を感じている人は、先生方に反発したり文句を言うのではなく、風を感じてしまう原因を先生方と共に冷静に考え、一緒に風に向かい、風に乗っていこうとする、「大人の対応」を期待したい。そう思います。

風を感じる人がいけない、というわけではありません。風を感じている人は、先生方に反発したり文句を言うのではなく、風を感じてしまう原因を先生方と共に冷静に考え、一緒に風に向かい、風に乗っていこうとする、「大人の対応」を期待したい。そう思います。

小学校も中学校も高校も、一人一人の子どもに社会人としての資質を培うものです。未来に向けた営みです。保護者の皆様、小学校の時はよかったのに中学校ではなぜだめなのか、という視点より、高校・社会生活に向けて準備するのが中学校という視点で、子ども達を見守っていただきたいと思っています。私達と生徒と保護者が、三位一体となって鹿南中の風を創っていくことができるようになれば、とても素晴らしいことだと思います。

～ 【 栄光を講えて 】 ～

メジャーリーガー・大谷選手の本塁打王やベブルース依頼103年ぶりの二桁勝利二桁本塁打が期待される所ですが、私にとってはそれ以上のニュースが飛び込んできました。既にHPや安心メールでお伝えしましたが、第18回全国中学生弓道大会・JOCジュニアオリンピックカップ大会で、団体戦において鹿南中女子チームが、個人戦において吉永優陽さんが優勝するという、大快挙が達成されました。「すごい。」一言では到底表現できないとてつもない偉業です。日本一のチーム、選手が鹿南中に在籍していると考えただけで震えるほど感動してしまいます。こんな経験は教師になって初めてです。選手、監督、コーチ、保護者の皆様に感謝、感謝です。



また野球部は、熊本市中学生野球大会(市長旗)において第5位まで躍進、県大会出場。女子テニス部も熊本市北部地区新人戦・個人戦で、田中鈴蘭・山本華音ペアが6位入賞、県大会出場という活躍を見せてくれました。皆さん、本当におめでとうございます。

鹿南中の風が吹き始め、「麗気烈風」になりつつある気配を感じています。部活動も勉強も塾も習い事も何でも、やる以上は徹底してそれに打ち込んでほしいものです。自分の打ち込むべきものを見つけ、それにエネルギーを全集中して取り組む。一見これはとてもきついことのように思いますが、社会人となり家庭を持つ私達から見れば本当はとても贅沢で幸せなことなのだと思います。

再び戻らぬ、人生80年のたった3年間、人生の3.8%という、とても貴重な、とても幸福な中学生時代で、なぜスマホやゲームといった、いくつになっても、いつでもできるものにエネルギーを費やそうとする子ども達が増えてきているのか、理解できません。他にすることないの?と思います。

再び戻らぬ、人生80年のたった3年間、人生の3.8%という、とても貴重な、とても幸福な中学生時代で、なぜスマホやゲームといった、いくつになっても、いつでもできるものにエネルギーを費やそうとする子ども達が増えてきているのか、理解できません。他にすることないの?と思います。

学校に行き、友達と話し、先生方と交わり、友達と共に学び、くたくたになるまで部活で鍛えられて、家に帰って夕食をお腹一杯食べ、お風呂からあがったらバタンキュー。朝まで爆睡。そんな中学校生活が本当は幸せなのでは?と思います。「今しかできないことに集中し、楽しめ!」です。



再び戻らぬ、人生80年のたった3年間、人生の3.8%という、とても貴重な、とても幸福な中学生時代で、なぜスマホやゲームといった、いくつになっても、いつでもできるものにエネルギーを費やそうとする子ども達が増えてきているのか、理解できません。他にすることないの?と思います。

学校に行き、友達と話し、先生方と交わり、友達と共に学び、くたくたになるまで部活で鍛えられて、家に帰って夕食をお腹一杯食べ、お風呂からあがったらバタンキュー。朝まで爆睡。そんな中学校生活が本当は幸せなのでは?と思います。「今しかできないことに集中し、楽しめ!」です。